⑹ 昆虫類　③ チョウ目ガ類

日本に生息するガ類は小型のガ類を中心に現在その解明が進み6,300種を超えている。しかし、全体を網羅した最新の印刷物は日本産蛾類標準図鑑であり、全4巻を集計して5,888種が掲載されている。本書を刊行するにあたり、そこから外来種や迷入種などを除いた 2,427 種を対象に本県における生息状況を調査した結果、その約 1%にあたる 24 種をレッドリスト掲載種とした。

これまでのチョウ目（ガ類）昆虫の掲載種数の変遷をみると、初版と改訂版の 22 種、前版での 23 種、そして、本書の 24 種と絶滅を危惧すべき状況にあるガ類の種数はあまり変化していないが、改訂ごとに指定の見直しを行い、レッドリストからの除外および追加を行った。今回の改訂では、モンクロギンシャチホコ、フシキキシタバ、コトラガの 3 種をリスト外とし、クワトゲエダシャク、カギモンハナオイアツバ、ミスジキリガ、ガマヨトウの 4 種を追加した。

ガ類の多くは夜行性で、都市化による夜間の照明が生息状況に悪影響を与えることが明らかで、市街地や道路沿いなど、夜間も照明で明るい地域では特に大型のガ類の減少が急激に進んでいる。ヤママユやイボタガは 1980 年代までは県内の全域で生息していたが、1990 年以降、県東部の台地や低地帯での記録が急激に減少し、ヤママユは松伏町における 2000 年の記録を最後に、また、イボタガは幸手市における 2004 年の記録を最後に、県東部からの記録は途絶えている。

また、食草が特定の植物に限定されている種では、生息環境の変化による食草の減少が重大な問題となっている。例えばアシナガモモブトスカシバの食草はゴキヅル（埼玉県 RDB 植物編 2011・絶滅危惧 II 類）に限られ、ゴキヅルの消滅が種の消滅につながる。さいたま市岩槻区の元荒川沿いに生息している本種は、2012 年・2013 年には成虫を複数確認したが、2014 年・2015 年には確認できなかった。これは、元荒川の護岸工事によって同地に生育するゴキヅルが数株まで減少したことが大きな要因であったと考えられる。その後、2016 年にゴキヅルの生育状況が好転すると同年 5 月に成虫 1 個体が確認され、8 月には 4 個体を確認できた。
同様のことが食草の種類が限定されているオナガミズアオ、ヒメシロシタバ、ナマリキシタバ、ウスミミモンキリガなどでも危惧され、食草を含めた生息環境の保全が必要である。

このほか、県内の低地から台地・丘陵帯に生息する多くの種について、宅地造成や大規模開発による雑木林や草地・湿地の減少により、生息地の規模縮小や地域個体群の孤立、消滅が進行していることが調査で明らかになっている。

一方、ヒロヘリアオイラガやアメリカシロヒトリのように海外より日本に侵入したガ類も多く、街路樹や農作物に被害を与える種も多いことから今後も注視が必要である。

［付記］次ページ以降の種ごとの解説における形態や国内分布に関する項目は、日本産蛾類標準図鑑 I ～ IV（2011-2013, 学研教育出版）ほかを参照した。

科　名　スカシバガ科

〔和　名〕 **アシナガモモブトスカシバ**

〔学　名〕 *Macroscelesia longipes yamatoensis* Arita

埼玉県(2018)　NT1　環境省(2015)　VU

指定状況　－

【形　態】 開長 オス 18 ～ 24mm、メス 19 ～ 28mm。前翅は細長い。後脚の跗節が非常に長い。

【国内分布】 本州、九州

【主な生息環境】 寄主植物がゴキヅル（ウリ科）に限定される。幼虫はゴキヅルの茎に虫こぶを作り成長する。年 2 化で、6 月～ 10 月に成虫が見られる。

【県内での生息状況】 本種に関する公表された県内最初の記録は、吉川市、三郷市の市境付近江戸川河川敷で 2004 年 6 月 20 日に成虫が目撃された記録（田悟 ,2005）である。その後、2012 年 7 月にさいたま市岩槻区の元荒川付近で本種が写真撮影された（未発表）情報をもとに行った調査で生息を確認した。また、富士見市東大久保での目撃情報（未発表）を受けて調査し、同地でも生息を確認した。なお、江戸川河川敷では田悟の記録以降、生息が確認されていない。

【特記事項】 寄主植物がゴキヅル（埼玉県 RDB 植物編 2011・絶滅危惧Ⅱ類）に限られ、生息場所がゴキヅルの生育する湿地に極限される。

科　名　シャクガ科

〔和　名〕 **フチグロトゲエダシャク**

〔学　名〕 *Nyssiodes lefuarius* (Erschoff)

埼玉県(2018)　NT1　環境省(2015)　－

指定状況　－

【形　態】 開長 オス 25 ～ 30mm、メスの翅は痕跡的。オスの触角は羽毛状で長い。メスはナメクジの様な体型。

【国内分布】 北海道、本州、四国、九州

【主な生息環境】 成虫は昼行性で、早春の 2 月～ 3 月にかけて出現する。オスは晴天時のみ活発に飛翔する。メスは翅を持たず、草むらでコーリング行動を行い、オスを待っている。幼虫は広食性で 6 科以上の植物が食草として記録され、タデ科・バラ科・マメ科・キク科などの草本の記録が多い。

【県内での生息状況】 本県では、旧浦和市（現さいたま市）秋ヶ瀬で1960年 3 月 2 日に 1 オスが採集された(戸田市立郷土博物館で標本が保管されている)。その後、しばらくの間は正確な記録がなかったが、2008年になってさいたま市桜区で再発見された（未発表）。その後、2009 年にも同地域で生息が確認され（吉田 , 2009; 荻島 , 2010）、以降、同地での生息が継続的に確認されている。

【特記事項】 食草の選択性が幅広く、県内にはさいたま市桜区の生息地と同様な環境の場所が数多くあるが、現在のところ他地域での記録がない。

科　名　ヤガ科

〔和　名〕 **ハスオビアツバ**

〔学　名〕 *Zanclognatha obliqua* Staudinger

埼玉県(2018)　NT1　環境省(2015)　－

指定状況　－

【形　態】 開長 20 ～ 23mm。翅の地色は明るく黄灰白色。各横線は斜めに直線的に並ぶ。

【国内分布】 北海道、本州（中部地方以北）

【主な生息環境】 スゲ類（カヤツリグサ科）を食草とし、湿地に生息する蛾で、分布は局限される。成虫は年 2 化。6 ～ 9 月に発生する。

【県内での生息状況】 これまでに旧浦和市（現さいたま市）・川口市・北本市・久喜市・所沢市の記録（萩原 , 1998）と春日部市（萩原 , 2004）の記録がある。その後しばらく記録がなかったが、最近になって川口市で継続して発生していることが判明した（工藤 , 2015）。

【特記事項】 近県ランク　茨城県 : 希少種、栃木県 : 準絶滅危惧。

科　名　ヤガ科

〔和　名〕 **ナマリキシタバ**

〔学　名〕 *Catocala columbina yoshihikoi* Ishizuka

埼玉県(2018)　NT1　環境省(2015)　－

指定状況　－

【形　態】 開長 43 ～ 53mm。前翅は鉛色を帯び、横線は黒くはっきりしている。

【国内分布】 本州（関東地方以西）、四国、九州

【主な生息環境】 成虫は、年 1 化。7 ～ 8 月に出現する。食草はシモツケ類で、特に県内ではイワシモツケ群落に依存しているため、産地が限定される。

【県内での生息状況】 過去の記録は、旧大滝村（現秩父市）の三峰山（島潟 , 1965）、同村の三国峠（並木 , 1983; 築比地 , 1996）の 3 例のみで、旧大滝村の山地帯から亜高山帯に分布は限られていると考えられる。2015 年の調査では秩父市大滝で 2 頭が確認されたが、これら以外の生息情報は得られていない。

【特記事項】 近県ランク　長野県 : 準絶滅危惧。

科　名　ヤガ科　　埼玉県(2018) NT1　環境省(2015) NT

〔和　名〕 **ヒメシロシタバ**　　指定状況 －

〔学　名〕 *Catocala nagioides* Wileman

【形　態】 開長 48 ～ 57mm。近縁のコシロシタバ *C. actaea* に似るが前翅が少し幅狭く、一様に暗褐色なものが多い。

【国内分布】 北海道、本州、四国、九州

【主な生息環境】 成虫は、年 1 化で 7 ～ 8 月に出現する。食樹はブナ科のカシワで、産地はカシワの分布に関連してやや局限される。

【県内での生息状況】 過去の記録は、秩父市・本庄市・横瀬町にある（萩原 , 1998）。横瀬町の丸山で 1996 年 8 月 10 日にオス 1 頭が得られた記録（利根川 , 1997）以降の生息情報はない。県内ではカシワの自生地が少なく、今後とも、生息状況調査が必要である。

【特記事項】 近県ランク　群馬県 : 準絶滅危惧、栃木県 : 準絶滅危惧、長野県 : 留意種（N）。

科　名　ヤガ科　　埼玉県(2018) NT1　環境省(2015) NT

〔和　名〕 **ウスミミモンキリガ**　　指定状況 －

〔学　名〕 *Eupsilia contracta* (Butler)

【形　態】 開長 40 ～ 45mm。前翅は黄褐色・褐色などの変異がある。

【国内分布】 北海道、本州、四国、九州

【主な生息環境】 成虫は、年 1 化で晩秋から早春に見られる冬の蛾である。幼虫はハンノキ（カバノキ科）を食べる。ハンノキが繁茂する河川敷や湿地に分布する。

【県内での生息状況】 県内では、これまでに川口市・さいたま市・秩父市・新座市・東松山市から記録がある（萩原， 1998）。近年では、2015 年に川口市で採集された（工藤 , 2015）。また、2016 年の調査でもさいたま市桜区と緑区に生息していることが確認されたが、ハンノキ林内に限られる。

【特記事項】 近県ランク　群馬県 : 情報不足、栃木県 : 絶滅危惧Ⅱ類、千葉県 : 準絶滅危惧。

科　名　アゲハモドキガ科　　埼玉県(2018) NT2　環境省(2015) －

〔和　名〕 **フジキオビ**　　指定状況 －

〔学　名〕 *Schistomitra funeralis* Butler

【形　態】 開長 46 ～ 53mm。触角は、オスは櫛歯状、メスでは微毛状。ミスジチョウ類に似た斑紋をしている。

【国内分布】 本州（関東地方以西）、四国、九州　　日本固有種

【主な生息環境】 成虫は、年 1 化。5 ～ 6 月に出現し、昼行性で花に集まる。幼虫はナツツバキを食樹とする。日本固有種で、各地域とも生息個体数が少ない。

【県内での生息状況】 本種の記録は県西部の山地に集中しており、古い記録（市川 ,1978）では旧荒川村の浦山口、旧大滝村二瀬、上中尾（いずれも現秩父市）がある。近年では、秩父市の霧藻ヶ峰で 2009 年 6 月 7 日のメス 1 頭の記録があり（阿部 , 2010）、2015 年の調査では秩父市大滝の入川林道でオス 1 頭、中津川林道でメス 2 頭が得られている。個体数は少ないながら、秩父市大滝の広い範囲に生息していると考えられる。

【特記事項】 近県ランク　群馬県 : 準絶滅危惧、長野県 : 情報不足。

科　名　ヤママユガ科　　埼玉県(2018) NT2　環境省(2015) －

〔和　名〕 **クロウスタビガ**　　指定状況 －

〔学　名〕 *Rhodinia jankowskii* (Oberthur)

【形　態】 開長 オス 85mm 内外、メス 85mm 内外。翅の地色はウスタビガより暗色である。

【国内分布】 北海道、本州、四国、九州

【主な生息環境】 成虫は、年 1 化で 10 月中旬に出現する。雌雄ともに光に集まる走光性が強く、夜間の照明が生息状況に悪影響を与える。幼虫は、キハダの葉を食する。

【県内での生息状況】 秩父市大滝の亜高山帯・山地帯に広く分布しているが個体数は多くない。現在も少ないながら継続的に生息が確認されいる。2016 年の調査でも秩父市大滝の小赤沢で生息が確認された。

【特記事項】

科　名　スズメガ科
〔和　名〕 **オビグロスズメ**
〔学　名〕 *Sphinx crassistriga* (Rothschild and Jordan)

埼玉県(2018)　NT2　環境省(2015)　－
指定状況　－

【形　　態】 開長 50 ～ 75mm。近縁のマツクロスズメ *S. morio morio* に似るが、翅形が細長く翅頂がややとがる。

【国内分布】 北海道、本州、四国、九州　日本固有種

【主な生息環境】 成虫は、年 1 化で 7 ～ 8 月に出現する。幼虫の草食は不明だが、マツ科のモミ属を食するものと推測されている。走光性が弱く、活動時間が遅いため採集しにくい。

【県内での生息状況】 県内の記録は、横瀬町の丸山で 1992 年 8 月 1 日にオス 1 頭が得られた記録（利根川 , 1997）のみ。

【特記事項】 近県ランク　千葉県 : 絶滅危惧ⅠA 類

科　名　シャチホコガ科
〔和　名〕 **ヘリスジシャチホコ**
〔学　名〕 *Neopheosia fasciata* (Moore)

埼玉県(2018)　NT2　環境省(2015)　－
指定状況　－

【形　　態】 開長 オス 45 ～ 50mm、メス 54 ～ 56mm。前翅は全体的に淡褐色。翅頂部にこげ茶色の小帯がある。

【国内分布】 本州、四国、九州

【主な生息環境】 成虫は、年 2 化で 5 ～ 8 月に出現する。サクラ類・クリ・アセビ等から幼虫が見つかっている。蛹で越冬する。

【県内での生息状況】 県内では、小鹿野町・秩父市・横瀬町・寄居町に記録がある（萩原 , 1998）。昨年の調査で、秩父市大滝でオス 1 頭を確認した（2015 年 8 月 8 日）。過去の記録から、県西部の山地に広く分布しているが、個体数が少ない種と考えられる。

【特記事項】

科　名　シャチホコガ科
〔和　名〕 **マエジロシャチホコ**
〔学　名〕 *Notodonta albicosta* (Matsumura)

埼玉県(2018)　NT2　環境省(2015)　－
指定状況　－

【形　　態】 開長 オス 50 ～ 54mm 内外、メス 59mm 内外。前翅は明るい褐色。前縁部の外横線より内側は白い。

【国内分布】 北海道、本州、四国、九州　日本固有種

【主な生息環境】 成虫は、年 2 化で 6 ～ 8 月に出現する。幼虫はミズナラを食べる。県内の分布はミズナラの生育する山地帯・亜高山帯に限られる。

【県内での生息状況】 県内では、小鹿野町・秩父市に記録がある（萩原 , 1998）。2015 年の調査で、小鹿野町日向において成虫 1 頭を確認した。これまで県西部の山地帯・亜高山帯で継続的に採集記録が残されているが、いずれの記録も採集された個体数が少ない。

【特記事項】 近県ランク　茨城県 : 希少種。

科　名　シャチホコガ科
〔和　名〕 **ネスジシャチホコ**
〔学　名〕 *Fusadonta basilinea* (Wileman)

埼玉県(2018)　NT2　環境省(2015)　－
指定状況　－

【形　　態】 開長 オス 45 ～ 52mm、メス 60 ～ 62mm。全体的に黒褐色の鱗粉が散布されているように見える。

【国内分布】 本州（福島県以南）、四国、九州

【主な生息環境】 成虫は、年 2 化、5 月～ 8 月に出現。幼虫はクヌギを食べる。

【県内での生息状況】 県内では、これまでに小鹿野町・狭山市・長瀞町・本庄市・皆野町に記録がある（萩原 , 1998）。いずれの記録も採集された個体数は少ない。本庄市板倉での記録（1990 年 6 月 23 日 , オス 1 頭）が最後の記録（市川 ,1993）。

【特記事項】 近県ランク　栃木県 : 準絶滅危惧、茨城県 : 希少種。

科　名　ヤガ科
〔和　名〕 **タカオキリガ**
〔学　名〕 *Pseudopanolis takao* Inaba

埼玉県(2018)　NT2　環境省(2015)　－
指定状況　－

【形　態】 開長 37～42mm。アズサキリガに似るが前翅が幅狭く、外縁部の橙褐色の斑紋が異なる。
【国内分布】 本州、四国、九州　日本固有種
【主な生息環境】 成虫は、年１化で３～５月上旬に出現する。食草は未知であるが、幼虫をヒマラヤスギやモミ（マツ科）で飼育した記録がある。
【県内での生息状況】 県内では温帯林上部で生息が確認されており、旧大滝村（現秩父市）川俣や滝川、栃本に記録がある（萩原 , 1998）。秩父市大滝の東京大学秩父演習林内で実施されている定期調査では、本種は毎年のように確認されているが、個体数の少ない種である。
【特記事項】 近県ランク　神奈川県 : 絶滅、栃木県 : 要注目。

科　名　ヤガ科
〔和　名〕 **イチモジヒメヨトウ**
〔学　名〕 *Xylomoia fusei* Sugi

埼玉県(2018)　NT2　環境省(2015)　VU
指定状況　－

【形　態】 開長 25～28mm。前翅は灰黄色の木目調で、前縁部が暗色。中央帯下部に明瞭な黒褐色条がある。
【国内分布】 本州（宮城県、群馬県、茨城県、栃木県、埼玉県、千葉県、新潟県）　日本固有種
【主な生息環境】 成虫は年１化で、７～８月に出現する。食草は、クサヨシが知られており、典型的な池沼や河川敷の蛾である。
【県内での生息状況】 過去には、春日部市、北本市、旧浦和市（現さいたま市）、戸田市に記録がある（萩原 , 1998）。最近では､2011 年と 2014 年に川口市内で各１頭が採集された記録がある（工藤 , 2015）。これらの地域は市街化が進行しており、絶滅が心配される。
【特記事項】 近県ランク　千葉県 : 絶滅危惧Ⅱ類、栃木県 : 準絶滅危惧、茨城県 : 希少種、群馬県 : 準絶滅危惧。

科　名　マダラガ科
〔和　名〕 **ヤホシホソマダラ**
〔学　名〕 *Balataea octomaculata* (Bremer)

埼玉県(2018)　DD　環境省(2015)　NT
指定状況　－

【形　態】 開長 16～21mm。体は全体的に暗青色で光沢がある。前翅は暗褐色、黄色斑は短く明瞭。
【国内分布】 北海道、本州、四国、九州
【主な生息環境】 成虫は、年１～２化。６月・８月に出現する。幼虫は、イネ科のササ・タケ・ヌマガヤなどを食べ、明るい湿地に生息する。
【県内での生息状況】 県内の確実な記録は、横瀬町の武甲山山頂付近で 2005 年 6 月 25 日に本種が採集された記録（和田 , 2006）で、その後、秩父市大野原で 2010 年、2011 年にも本種が確認された（岩田 , 2016）。また、本庄市（内田 , 2016）、熊谷市（半田 , 2016）の記録も発表され、今後とも継続調査が必要である。
【特記事項】 奥秩父の山林では、ササ類がニホンジカの採食影響を受けており、本種の生息環境が悪化していることが懸念される。

科　名　シャクガ科
〔和　名〕 **クワトゲエダシャク**
〔学　名〕 *Apochima excavata* (Dyar)

埼玉県(2018)　DD　環境省(2015)　NT
指定状況　－

【形　態】 開長 オス 40～45mm、メス 50～55mm。全体的に赤みが弱く、後翅は白色部が発達している。
【国内分布】 北海道、本州、九州
【主な生息環境】 クワの害虫として知られていたが、養蚕の衰退などの要因が重なって全国的に激減し、近年の記録がほとんど無い。
【県内での生息状況】 県内での記録は、皆野町（戦場）での 1986 年 4 月 5 日 , オス１頭（柳田 , 1991）と寄居町（桜沢）での 1989 年 3 月 25 日 , メス１頭（内田 , 1990）の２例があるのみで、その後の記録がなく、現在の生息状況は不明である。
【特記事項】 近県ランク　群馬県 : 情報不足、長野県 : 留意種（N）。

科　名　コブガ科
〔和　名〕 **トビイロリンガ**
〔学　名〕 *Siglophora ferreilutea* Hampson

埼玉県(2018)　DD　環境省(2015)　－
指定状況　－

【形　態】 開長 25mm 内外。前翅は紫紅色と黄色で彩られる。斑紋は雌雄の大差がない。
【国内分布】 本州（関東地方以南）、四国、九州、対馬、屋久島
【主な生息環境】 暖地の蛾で、埼玉県は分布の北限に近い。成虫は、年 2 化で 5 ～ 9 月に出現する。食草は知られていない。
【県内での生息状況】 県内では、これまでに入間市・小川町・越生町・秩父市・長瀞町・飯能市・皆野町・横瀬町に記録ある（萩原 , 1998）。最近では越生町での採集記録（2013 年 8 月 3 日 , オス 1 頭）がある（水上 , 2016）。
【特記事項】

科　名　ヤガ科
〔和　名〕 **カギモンハナオイアツバ**
〔学　名〕 *Cidariplura signata* (Butler)

埼玉県(2018)　DD　環境省(2015)　NT
指定状況　－

【形　態】 開長 28 ～ 32mm。前翅の地色は明るく、カギ状の横脈紋がある。
【国内分布】 本州、四国、九州、屋久島
【主な生息環境】 明るい雑木林の林縁や河川敷などの草地で発生しているが少ない。年 1 化または 2 化。食草は知られていない。
【県内での生息状況】 県内から知られている記録は、旧浦和市（現さいたま市）の（矢野 ,1967）、川口市と旧鳩ヶ谷市（現川口市）の（並木 ,1984）3 例のみである。これらの地域は市街化が進行し、現在の生息状況が不明で絶滅を危惧すべき種と判断した。
【特記事項】 近県ランク　栃木県 : 準絶滅危惧、群馬県 : 情報不足。

科　名　ヤガ科
〔和　名〕 **ミスジキリガ**
〔学　名〕 *Jodia sericea* (Butler)

埼玉県(2018)　DD　環境省(2015)　NT
指定状況　－

【形　態】 開長 32 ～ 35mm。前翅は明るい橙色。横線は褐色でやや不明瞭。
【国内分布】 北海道、本州、四国、九州
【主な生息環境】 成虫は年 1 化。10 月～ 11 月に羽化し、成虫で越冬する。ブナ科のクヌギ、アラカシ、カシワなどを食樹としている。燈火にはほとんど集まらず、糖蜜を用いた調査で得られることが多い。
【県内での生息状況】 過去には、川口市と旧浦和市（現さいたま市）からの記録（並木 , 1982）、および鳩山町からの記録がある（築比地 , 1996）。その後、秩父市吉田で 2006 年 3 月 21 日に採集されたとされる個体の写真が Web 上に掲載された。それ以降の生息情報が無く、生息状況が不明のためレッドリストに追加した。
【特記事項】 近県ランク　千葉県 : 絶滅危惧ⅠB 類、群馬県 : 情報不足、長野県 : 留意種。

科　名　ヤガ科
〔和　名〕 **ガマヨトウ**
〔学　名〕 *Archanara aerata* (Butler)

埼玉県(2018)　DD　環境省(2015)　VU
指定状況　－

【形　態】 開長 32 ～ 42mm。前翅の地色は黄褐色から橙褐色。腎状紋下部の黒色は現れない。
【国内分布】 北海道、本州（中部地方以北）
【主な生息環境】 成虫は年 1 化で、7 ～ 8 月に出現する。食草は、ガマが知られており、典型的な池沼や河川敷の蛾である。
【県内での生息状況】 県内では、川口市と旧浦和市（現さいたま市）に記録がある（並木 , 1982）が、最近の生息情報はない。これらの地域では土地開発により湿地的な環境が減少しているが、本種は湿地環境の指標として多くの県で注目されていることからレッドランクを DD としてレッドリストに追加した。
【特記事項】 近県ランク　神奈川県 : 絶滅危惧Ⅱ類、栃木県 : 絶滅危惧Ⅱ類、群馬県 : 情報不足、千葉県 : 絶滅危惧Ⅱ類。

科　名　ヤママユガ科
〔和　名〕 **オナガミズアオ**
〔学　名〕 *Actias gnoma* (Butler)

埼玉県(2018) RT　環境省(2015) NT
指定状況 －

【形　態】 開長 オス 80 ～ 90mm、メス 90 ～ 100mm。触角は淡緑色、前翅前縁は明るい赤色をしている。
【国内分布】 北海道、本州（伊豆諸島を含む）、四国、九州
【主な生息環境】 幼虫の食樹がカバノキ科のハンノキやヤシャブシなどに限られており、ハンノキ類の分布と本種の分布が関連している。
【県内での生息状況】 県内での過去の記録は、県東部の低地から大宮台地・低山地帯にかけて多くの記録が残されている（市川 , 1978; 萩原 , 1998）。しかし、近年は生息を確認できる地域が激減し、今回の調査では川口市行衛、さいたま市桜区で生息を確認したが、他地域からの情報はない。これらの調査結果からレッドランクを前版の LP から NT2 に変更した。
【特記事項】 さいたま市桜区の荒川河川敷には大規模なハンノキ林が残され、オナガミズアオの安定した生息地となっている。

科　名　ヤママユガ科
〔和　名〕 **ヤママユ**
〔学　名〕 *Antheraea yamamai* (Guérin-Méneville)

埼玉県(2018) RT　環境省(2015) －
指定状況 －

【形　態】 開長 オス 135mm 内外、メス 140mm 内外。雌雄ともに黄色・赤褐色・暗褐色等、色彩変化が大きい。
【国内分布】 北海道、本州、四国、九州、南西諸島
【主な生息環境】 成虫は、年 1 化。夏から初秋に出現する。幼虫は、クヌギ・コナラ・クリ・カシワ・カシ等のブナ科やリンゴ・サクラ等のバラ科の葉を食べる。雑木林とその周辺でよく見られるが、成虫の走光性が強いことなどで、夜間、住宅や街灯の光に誘引されてその場に留まることが多く、翌朝に鳥等に捕食されることが多い。そのためか、市街地やその周辺で急激に個体数が減少している。
【県内での生息状況】 県西部の山地帯では、現在も多数生息していることが確認されているが、県東部の台地や中川・加須低地では生息地が激減し、この地域では松伏町での 2000 年の記録（加藤 , 2001）を最後にその後の確認例がない。
【特記事項】

科　名　ヤママユガ科
〔和　名〕 **エゾヨツメ**
〔学　名〕 *Aglia japonica* Leech

埼玉県(2018) RT　環境省(2015) －
指定状況 －

【形　態】 開長 オス 65mm 内外、メス 100mm 内外。翅の地色はオスでは濃い褐色、メスでは淡褐色である。
【国内分布】 北海道、本州、四国、九州
【主な生息環境】 成虫は、年 1 化で早春に成虫が発生する。幼虫は、カバノキ・ハンノキ・ブナ・クリ・コナラ・カシワなどを食べる。成虫は走光性が強く、春先に灯火によく飛来する。このため、市街地やその周辺では急激に個体数が減少している。
【県内での生息状況】 以前は県東部の大宮台地から西部の亜高山帯まで広く分布していたが、大宮台地では 1967 年の記録（尾熊 , 1967）以後は記録がない。また、丘陵帯では入間市仏子での 1989 年の記録（井上 , 1990）が最後である。現在も県西部の山間部では継続的に記録されているが、市街地での記録はない。
【特記事項】

科　名　イボタガ科
〔和　名〕 **イボタガ**
〔学　名〕 *Brahmaea japonica* Butler

埼玉県(2018) RT　環境省(2015) －
指定状況 －

【形　態】 開長 オス 91mm 内外、メス 94mm 内外。外観上は雌雄の差がない。
【国内分布】 北海道、本州、四国、九州、屋久島
【主な生息環境】 成虫は年 1 化、早春に成虫が発生する。走光性が強く、春先に灯火に飛来することが多い。
幼虫は、イボタノキ・モクセイ・トネリコ・ミズミモチ・ヒイラギなどのモクセイ科の植物を食樹としている。
【県内での生息状況】 過去には全県的に広く記録がある。西部の山地帯では、現在も確実に記録が残されているが、東部の大宮台地、中川・加須低地では近年の記録がなく、松伏町の 2000 年 4 月 23 日 1 頭（加藤 , 2000）、幸手市での 2004 年 4 月 12 日目撃（埼玉昆虫談話会 , 2004）以外に記録がない。
【特記事項】 近県ランク　東京都 :CR+EN（区部・北多摩）:VU（南多摩・西多摩・本土部）、群馬県 : 注目、栃木県 : 要注目。